

生存科学研究ニュース

Vol. 38, No.3

2023.10 発行

発行 公益財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座 4-5-1

tel: 03-3563-3518 fax: 03-3567-3608 email: office@seizon.or.jp http://seizon.umin.jp

なぜ生存科学研究所と関わるのか

副理事長 丸井 英二



このたび、生存科学研究所の副理事長をお引き受けしました。亡くなられた青木清 前理事長を引き継がれた松下理事長、竹下専務理事と協力しながら、常務理事、理事のみなさまとともに運営に携わってまいります。

私が生存科学研究所という名称を知るようになったのは、1985年から1986年にかけての頃でした。当時のハーバード大学大学院フィンバーグ学部長、武見プログラムのリンカーン・チェン教授と東京で会う機会があり、その後、翌年にはフェローの候補の一人として銀座の生存科学研究所で面接がありました。武見フェローは生存科学研究所の初期の重要な事業として、毎年一人をハーバード大学の公衆衛生大学院武見プログラムに送っていました。すでに厚生省の田中慶司先生（現 評議員）が1年目を終えて帰国し、2回目の藤井充先生（現 評議員）がポストンに在住中でした。3年目には、厚生省の技官以外からの候補として大学にいた私が推薦され、3人目のフェローとして1986年夏にポストンへ行くことになりました。結局2年間の滞在となり、さまざまな国際的な活動にも関わることができました。

ハーバード大学武見プログラムへの毎年のフェローの派遣は、生存科学研究所の大きな事業としてほぼ10年間にわたり継続しました。そして、その理念と方式は日本医師会の人材育成事業の一つとして引き継がれ、現在でも毎年2名が派遣されています。

私は初期のフェローとして2年間滞在したことで、その後の人生に大きな影響を与えられました。帰国後は、お礼の気持ちあるいは奨学金の返済のようなつもりで研究所の雑務をお手伝いさせていただいてきまし

た。それがこんなに長くなるとは思っていませんでした。

生存科学研究所の設立趣意書の日付は1984年3月22日になっています。もうすぐ設立40年を迎えることとなります。設立年の12月に創設者の武見太郎先生が亡くなられたので、私は武見先生にはお会いすることはできませんでした。もちろん、それ以前に日本医師会長としての名前はマスコミを通じて聞く機会がしばしばありましたが、けっして良いイメージではありませんでした。しかし、帰国後に生存科学研究所のさまざまな資料を見ていくうちに、その基本的な思想と立場ゆえの政治的実践を好ましく思うようになりました。

「生存科学」は1970年代のアメリカの思想的揺れ動きを反映しながら、武見太郎先生の宗教的信念に裏打ちされて、マクロな視野のもとで形成されていったと思います。それはまた、その時期に学生として思想的動乱の中にあつた私たちの世代の考えかたと不思議に共鳴するところがあるものでした。とくに時間を自由に前後しながら、生態学的な視野をもちつつ、個別の現象や科学を絶対化することなくバランスよく見ていきたいという、ある意味で参与観察的な方法論にもつながるところを感じました。人びとや地球全体の生存が未来にわたってどのように可能であるかを、自然科学、社会科学、人文学を総合的に再編することで見いだされる「生存科学」、それは次の世代を担う若い人びとにこそ理解され、活用されるべきであろうと考えられます。

そうした未来に向けての、世代をつなぐ作業が現在の生存科学研究所の使命の一つであろうと考え、なにか自分にできるお手伝いをしたいと模索しているところです。さらに、もっともっと若い世代にバトンを渡していきたいと考えます。みなさまのご協力をお願いいたします。

（人間総合科学大学人間科学部教授）

「過疎地と都市部における
高齢者の心理・比較研究」研究会

研究責任者 榊蔵 美智子

2023年5月から8月にかけて4回の研究会を実施し、鳥取県智頭町に3回(予備調査含む)、石川県珠洲市に1回調査に入りました。

この会の目的は、過疎地と都市部に住む高齢者に、保健師・介護職・医療職に就いている方の協力を仰ぎながらヒアリングし、高齢者の心理的安定につながっている要素を特定していくことです。また、地域特徴と高齢者の関係性や心理的課題を明確化すること、過疎地と都市部の比較による高齢者への心理的支援と社会的支援について明確化することも目的としています。

これまでの研究会では、「街づくりと高齢者」(岡田憲夫・関西学院大学、京都大学名誉教授)、「高齢者にとって必要とされる QOL」(町澤理子医師・国立国際医療研究センター国府台病院心療内科)、「高齢者の心理的特徴・老年的超越」(北山純教授・学習院大学)、「ものづくりと高齢者」(栗本美百合特任教授・奈良女子大学)、「高齢者の心理的孤独」(榊蔵美智子・立命館大学)というトピックを通して、個々のもつ専門領域について紹介しながら学びあい、メンバーの専門性やバックグラウンドを生かして調査に入る計画を立ててきました。

現在のところ、智頭町・福祉課の協力を得て、ミニデイという、高齢者支援(介護予防の一環として実施されてきている)の4つのグループに入り、見学とインタビューを実施しました。ここでは、高齢者の「日常のたのしみ」について焦点をあてて、ミニデイ利用者にインタビューをしています。ミニデイでは、おしゃべり、体操、うた、ランチなどの日課があり、日常のたのしみは「おしゃべり」や「畑仕事」「花の手入れ」などがあげられました。ミニデイで実施される「ランチ」や「カラオケ」をたのしみにしている人もいます。



智頭町のミニデイ 体操

珠洲市では、うたごえ喫茶に集う高齢者にインタビューしていますが、うたのあとの一服(コーヒー)を飲みながらのおしゃべり、畑仕事、うたに寄せる

思い出などが自発的に語られました。



珠洲市 うたごえ喫茶

これから東京都内や大阪での調査も実施し、ものづくりなどのワークも実施予定です。高齢者の日常の安定につながっている心理的要素や、ものづくりを通して語られていくものに注目し、人とのつながり、個人の趣味、地域とのつながりなどとの関連性についてさらに探求していきたいと思っています。

「我が国におけるソーシャル・インクルージョン
の実際と実現可能性の検討—育児や介護に
関する社会的支援に対する意識調査から—」研究会
研究責任者 吉田 浩子

今年度は、前年度の予備調査で得られた結果を踏まえ、市民の育児や介護等の社会的支援に対する意識やそれが反映された行為の実態等を明確にすることを目的とする量的調査を実施する。

そのため、2023年8月29日10:00~11:30にZOOM(リモート)にて、今年度第4回目の自主研究会を開催し、本調査を依頼するにあたっての最終検討を行った。出席者は6名であった。

具体的には、本調査の業務を委託する株式会社クロス・マーケティングと提携する各アンケートサイト登録者のうち、調査協力に対して同意をした一般市民約4000人を対象にWeb調査を実施する。調査内容として、育児・介護・貧困等の要因から何等かの社会的排除を受けている人々に対する自己責任意識や、自己決定、コミュニティや共同体に対する意識等と、地域性や属性等についてたずね、それらに関連する諸要因について明らかにする。今回の自主研究会では、研究対象者への説明書および調査票の最終確認を行った。研究対象者への説明として、研究の実施体制についてどこまで情報を開示するか等について議論を行った。また、調査票においては、本研究に参加することにより生じる利益及び不利益、負担並びに予測されるリスクに関する説明方法等について検討を行った。

本調査項目については昨年度から数ヶ月にかけて、班員間で何度も検討を重ね、ようやく調査実施まで辿り着くことができた。今後は、本年10月には本調査を終了し、随時集計・解析等を実施する予

定である。

我が国では、多様性を認め合う社会の構築を目指すなかで、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、介護と育児に同時に直面する「ダブルケア」や、高齢の親とひきこもりの子が同居している家庭の貧困や孤立といった「8050 問題」、子どもの7人に1人が相対的貧困状態であるといった「子どもの貧困」など、家族を取り巻く環境面において複合化・複雑化した課題を抱えている。

本調査で得られた結果から、調査対象者が育児や介護をはじめとする社会的課題や日々の地域生活について、どのようなことを考えたり感じたりしているのかといったことや、それらに対するものの見方・感じ方を把握するとともに、関係する諸要因を見出すことにより、市民の視線から社会的課題の解決方法を探っていきたいと考える。

「幼小接続期の教育から生涯の well-being を考える」研究会
研究責任者 宮城 利佳子

本研究会は、幼小接続期の教育のありかたを探り、子どもと教師双方の well-being を実現することを目指す研究会である。沖縄県は子どもの貧困が大きな問題となっているが、保育・教育は子どもに直接働きかけることができ、質の高い保育・教育は生涯の well-being へとつながる可能性がある。

2023 年度 4 月～9 月においては、保育者の神里友貴美、小学校教諭の金城愛梨、幼稚園教諭の実践経験及び行政経験のある養成校教員の名渡山よし乃と研究代表者の宮城で計 3 回の研究会を開き、その成果を日本生活科・総合的学習教育学会第 32 回全国大会・神奈川大会にて発表した。簡単に内容を紹介する。

幼児期の学びや育ちを小学校へつなぐ～遊びの共有方法を探る～：

神里の一年の保育実践記録を検討し、より遊びが充実していくための援助の方法について検討した。その結果、ドキュメンテーション作成及びウェビングマップ作成が、子どもがつながるための手段となっていることが明らかになった。ドキュメンテーション作成は、以下の 3 つの実践があった。週案作成のために幼児の姿を保育者がとらえるためのドキュメンテーションを作成する、保育室にドキュメンテーションを掲示し子どもが遊びを振り返ることができるようにする、子どもと一緒にドキュメンテーションを作成するの 3 つである。

さらに、ウェビングマップの形も年間を通して変化していることが明らかになった。4 月はウェビングマップを用いず、ホワイトボードに保育者が大事だと感じたことを箇条書きすることで子どもに保育者の考えを共有していた。9 月は、子どもの声をホワイトボードに記入し、ウェビングマップを作成することで子どもの考えを全体に共有するようにした。さらにその後、全紙の活用、色分け、別枠での箇条書きというように年間を通してより使いやすいように変化させた(図 1 参照)。その結果、子ども自身がウェビングマップを自分のイメージを伝える手段として用いるようになった。

また、これらの遊びを小学校へと共有する手段として「ようちえんだより」も発行している。

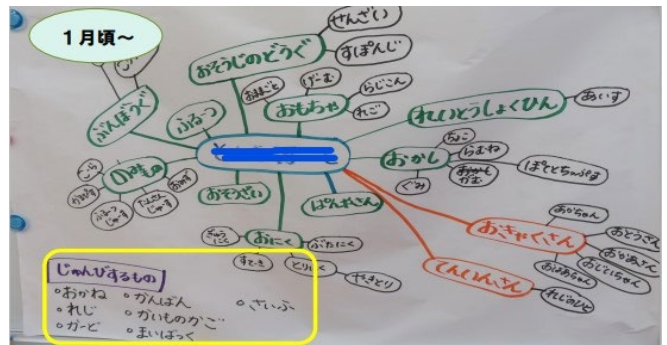


図 1: 保育中の話し合いにおけるウェビングマップの活用例

幼児期の学びを踏まえた生活科の単元づくり～「きせつとなかよし ふゆ」の実践を通して～：

保育者の援助の工夫を 15 の園観察で探り、その実践上の工夫を金城の生活科実践へと取り入れた。幼児教育施設を訪問した結果、(1)幼児の経験を共有する工夫(ドキュメンテーション) (2)幼児同士で考えを深める工夫(ウェビングマップ(図 2)や言葉かけ) (3)幼児が自由に動くことができる工夫(環境構成)を取り入れられる工夫であると考え、実践した。

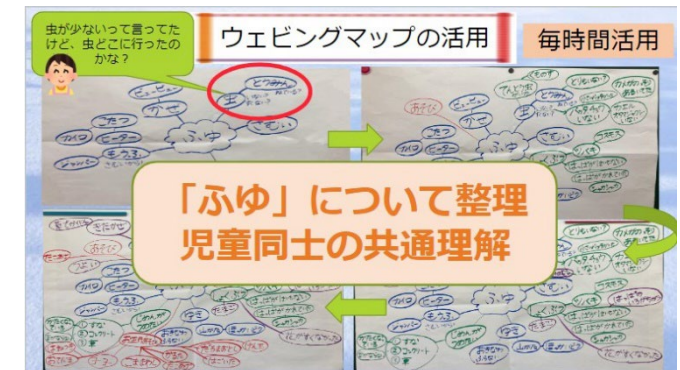


図 2: 小学校教育でのウェビングマップの活用例

教育実践上の工夫が、子どもの学習にどのような効果をもたらしているのかについて、これからさらに研究を進めていく予定である。

事務局 だより

2024年度自主研究事業・自主研究事業(若手研究者)および助成研究事業の募集を開始しました。

【自主研究会：一般部門・若手研究者部門】

<研究の趣旨>

「生存科学」は人類の健全な生存の基盤を構築することを目指す新しい総合科学である。

人類の健康の維持と増進に関する研究、環境、生態、経済、福祉、文化など生存科学に関する研究など、「生存科学」の推進に寄与する研究とする。また、当財団の理念である「生存の理法」を理解する知識の普及、提言および社会への啓発活動の研究などとする。

研究を実施するにあたり、研究会を組織すること。なお、研究会は、研究申請者が研究会責任者となり、研究メンバーは3名～4名以上で構成する。

<応募対象者：一般部門>

生存科学研究所の個人会員であること。

なお、賛助会員への新規入会手続きと同時進行中の場合も対象とする。

<応募対象者：若手研究者部門>

生存科学研究所の個人会員であること。

なお、賛助会員への新規入会手続きと同時進行中の場合も対象とする。

研究会責任者および研究会メンバー計3名以上は、**男性40歳女性45歳以下とする(2024年3月31日時点)**。

【助成研究等】

<助成の趣旨>

「生存科学」は人類の健全な生存の基盤を構築することを目指す新しい総合科学である。当財団は、生存科学の発展に関する事業を行い、人類の豊かな生存環境の実現、振興に寄与することを目的とする。この目的を達成するために、生存科学に関する学術的な普及、提言および社会への啓発に関連する研究に助成を行います。

基礎医科学・臨床医学・社会医学・保健科学、人類の健康の増進と教育等に関する研究およびシンポジウム、公開講座の開催などに助成を行います。

<応募資格>

我国の大学またはそれに相当する研究機関等において、上述分野の研究を主導的に実施している個人またはグループを助成の対象とする。

募集期間：2023年10月6日(金)-11月30日(木)

申請方法：ホームページ

(<http://seizon.umin.jp/index.html>)より

申請書をダウンロードの上、事務局にメールで申請する。



選考方法、選考結果の通知：

当財団の選考委員会において慎重に審査し、理事会に諮り決定する。

選考の結果は、2024年3月中に申請者に通知する。なお、申請書は採否に関らず返却しない。

採否の理由についてのご質問には応じません。

問合せ先および申請書提出先：

公益財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

聖書館ビル3階

T E L: 03-3563-3518 F A X: 03-3567-3608

E-mail: office@seizon.or.jp

U R L: <http://seizon.umin.jp/>

研究会等 日 報

- | | |
|-----------|---|
| 7月15日(土) | やんばるの森：沖縄における地域共生・精神文化・環境保全の役割と再生研究会 |
| 7月30日(日) | 生存の理法と現代社会の課題に関する実践的研究-人的環境に焦点を当てて-研究会 |
| 8月28日(月) | 過疎地と都市部における高齢者の心理・比較研究 |
| 8月29日(火) | 我が国におけるソーシャル・インクルージョンの実際と実現可能性の検討ー育児や介護に関する社会的支援に対する意識調査からー |
| 9月9日(土) | 保育パワーアップ研修会「子どもと食」 |
| 9月14日(木) | 「人類の安寧とより良き生存」シンポジウム |
| 9月20日(水) | 「避難所地域のリスク情報コンテンツ制作」に向けた、成城学校地理研究部との連携で進める地域防災研究 |
| 10月7日(土) | 「避難所地域のリスク情報コンテンツ制作」に向けた、成城学校地理研究部との連携で進める地域防災研究 |
| 10月14日(土) | 森とレジリエンス～地域の再生～研究会 |
| 10月23日(月) | 第1回みらいエンパワメントカフェ |